'79 1
No. 80
昭和54年1月5日発行
発行 横越村役場

広報よこごし

おもな内容

1. 新春のご挨拶 (1P)
2. ひつじ生まれ (2~3P)
3. 保育所入所申込み受付 (3P)
4. 村内一周駅伝 (4P)
5. 文化祭 (4P)
6. 新有権者感想文募集 (4P)

新春のご挨拶

横越村長 神田正平

村民の皆様明けましておめでとうございます。

輝かしい新春を皆様と共に元気よくお迎えする事を心からお喜び申し上げます。扨て過ぎし一カ年を省みますと国でも村でもいろ〳〵と多難な年でありました。即ち依然として続く国内の経済不況、農家にとっては厳しい米の生産調整、六・二六水害と農作物の大きな被害、こうした暗いニュースの一面、日中平和条約の締結による両国間の真の親善友好が確立した年でもあり、十二月に入って新内閣の誕生等によってこれからの前途にわずかながら明るい希望の触光が見えて来たのではないかと期待いたしております。

村では画期的な大事業であった上水道の拡張工事も完成し、これから新潟市の上水道と共に共同施設利用と云う形で運営される事になりますが水道については将来共村民が安心して供給を受ける事になるものと信じます。

なお教育施設の整備については小学校のプールが完成し続いて中学校の特別教室の改築を二カ年の継続事業として明年八月末完了を目標に着工する事になりました。新しい年昭和五十四年を迎えて新年度の予算編成に入る事になりますが、国の経済不況に伴い地方財政も益々財政難が予想されます。

(1) 教育施設の整備事業として横越中学校特別教室の改築工事。

(2) 環境整備事業として農村モデル事業の第四年目を迎えて本格的事業の推進と街路事業及部落道路改良舗装の継続的実施。

(3) 公共下水道の新規着工等が予定されております。

四月には統一地方選挙が行われ首長や議会議員の選挙が実施されそれ〳〵新旧の入れ替え等も予想されますが、いよ〳〵難しい村政を迎えて、村民協力一致新しい村作りのためにお互いに努力されん事を切望し皆様の御健康と御多幸を祈念して新春のご挨拶といたします。

新春を迎えて

村議会議長 佐藤栄太郎

明けましてお芽出とうございます。

輝かしい新春を村民の皆様と共にお喜びを申し上げます昨年中村議会に寄せられました御支援と御鞭撻を心から感謝し御礼を申し上げます。

昨年は我国におきましては打続く経済不況克服のために政府は公共事業優先政策を実施してまいりましたが、景気は稍上向きと聞きますが、まだ低迷から脱皮できない中に新しい年を迎えました。

敗戦後大外交の懸案であった日中平和友交条約の締結などは日本の将来に大きな希望と明るさをもたらすものと期待します。本村にとりましても厳しい財政状況の中ではありましたが、中央保育園の建設、阿賀野川浄水場による村内通水の実現、小学校プールの完成、農村モデル事業の推進、道路舗装の推進等が予定通り実施されました。反面米の生産調整（水田再編成対策）という厳しい国の農業政策を押しつけられ、反対しながらも協力せざるを得ない現実の問題（食管法堅持のため）又突如として襲った6・26豪雨水害により、尊い人命を失うと共に畑作を中心とした農作物に壊滅的損害を被る悲しい出来事もありました。

現在国、地方とも厳しい財政危機を迎えての54年度であります。

村議会は村民の皆様の代表として、村政に関し、村民の福祉増進のために、村政の発展のために、誠心誠意、最善の努力をいたします。

村民の皆様にとりましても公共議会にとっても最も重要な年でもあります。議会はあと四カ月足らずの残任期間ではありますが、村民の代表としての責任遂行のため最後の努力をいたします。村民皆様の御健康と御多幸を祈念し、新年の御挨拶といたします。

横越村

明けましておめでとうございます

皆様お揃いで良い新年をお迎えになられた事を心よりお喜び申し上げます。

……昔から、「一年の計は元旦にあり」と云われ、新年を迎えるたびに、今年こそは!!と、心を新たにして各人各様の計画をたて、その目標に向って努力するのであるが、なか〳〵思う様にいかないのが人の世のつねである。そして来年こそ、と思い、自分自身の意志の弱さを悔いあきらめながらも又、新年を迎えて、新たな希望をもつ事をくり返して成長していくのである。

道徳を楽しむ事も決して悪くはないが、やはり、希望（目標）をもつ事、持てる事が生きがいだと思う。そして、その目標に向って努力して、少しでも近ずこうとする熱意こそ何ものにもかえがたい尊いものである。それは形の表われるものもあり、又他の人の目から見てもわかりたいものもあるがすばらしいものである。今年は「ヒツジ」年。ヒツジは動物の中でなんの武器も持たず、そして、一匹では成長が遅く、常に群をなして生活して行く本能をもった代表的な動物とされる。そのヒツジ年にあやかり村民の皆様も生涯教育の場である公民館を大勢で利用し、大いに教養を高めていただきたい。又、いまいまで本館と一緒であった機織分館（分館長高橋良美）も独立した建物をもち、四つの分館が揃った。今年こそ分館充実の為セカンドギアーが入り、そしてサード、トップと回転する事でしょう。

村民の皆様も各自で立てた目標にむかって、自分自身の能力の開発に奮闘して見ようではありませんか。

今年も宜しく御指導、御鞭撻の程宜敷くお願い申し上げます。

（山賀）